

令和 7 年度 地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業
第 1 回検討会(1 日目) 議事要旨

■日 時：令和 7 年 10 月 23 日（木）14:30～18:15

■場 所：仙台市市民活動サポートセンター 地階 市民活動シアター

■出席者：柴田由紀委員長、熊谷早希子委員、笹井一史委員、佐藤里麻委員、千葉真哉委員
※過半数の出席により委員会成立

■事務局：市民協働推進課長、連携推進係長、他担当職員

■次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介
- 4 検討会の運営について
- 5 令和 6 年度事業実施報告・令和 7 年度事業中間報告
- 6 令和 6 年度事業実施報告および令和 7 年度事業中間報告の評価（非公開）
- 7 閉会

■会議内容

1 開会

市民局次長兼市民活躍推進部長より委嘱状交付

2 市民局次長兼市民活躍推進部長 挨拶

(省略)

3 委員紹介[事務局(連携推進係長)]

(省略)

4 検討会の運営について

[事務局(連携推進係長)]

・資料1に基づき説明

[柴田委員長]

・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は熊谷委員にお願いしたい。

(熊谷委員 了承)

5 令和6年度実施事業報告・令和7年度実施事業中間報告

委員紹介

(省略)

事業報告

(省略)

質疑応答

次ページのとおり

①事業名:教員志望大学生の不安・悩みを軽減する施策の実施とその効果の検証
(令和6年度 課題調査検証助成事業)

団体名:一般社団法人 manaco

[熊谷委員]

先生のほかにも学校のために活動している地域の人々がいるということを、団体が実施するプログラムの中でも伝えてもらいたい。

[柴田委員]

発表の中で「実践的」という言葉がよく出てきたが、大学の授業は「実践的」ではないのか。

[団体]

大学の授業で十分ではないか、と言われるとそうではない。元々学校の先生をしていた方が大学でも講師を務めるケースが増えており、大学の授業はこれからますます実践的な課程になっていくだろう。一方、学生からは、普段一緒に過ごしている同級生とケーススタディをするのは緊張するし恥ずかしいので、大学外で実践的な活動を行えるとありがたいという話を聞いている。このように、学校内と学校外、両方の取り組みが必要と感じる。

[柴田委員]

収益化など、本事業の今後の方向性を伺う。

[団体]

現時点では、学生から料金をいただいてサービスを運営することは考えていない。今回も、例えば参加費3,000円をいただくか検討したが、大学生の皆さんも生活が厳しく、アルバイトをしなければならぬ中で、現実的ではない。事業で集まったデータを企業に活用していただくという形で協賛費をいただけないか、検討を行っている。

[笹井委員]

事業を進める中で課題として感じたことは何か。

[団体]

学生の集客が非常に難しかった。団体の普段の活動で学生ボランティアに参加いただいているため、今回の事業においてもそのつながりで参加してくれる学生が多いと想定していたが、実際は想像していたよりも少なかった。また、インスタグラム等で広告も打ったが、効果は感じられなかった。

[佐藤委員]

模擬授業で生徒役となったのは、(本物の授業の相手となる)こどもではなく大人か。こども食堂を運営している身としては、地域のこどもにも関わってもらえるとありがたい。

[団体]

大学生または学校の先生方が生徒役となった。こどもを集めて模擬授業を実施するのは、集客の観点から難しかったが、地域に出て活動し、さまざまな知見やつながりを得られると良かったと感じている。

[千葉委員]

アンケート調査の母数を伺う。

[団体]

7名のみ。プログラムの参加者を対象としている。

[千葉委員]

アンケートの結果、参加者からどのような不安や悩みが出てきたか。

[団体]

令和4年度に行ったアンケート結果と近いが、実践の数が足りない、自分が現場に出て通用するのかという不安が一番多い。実践を行えば行うほど自分の力不足を感じる、という話は聞いている。

②事業名:魅力的な地域づくりに寄与できるエコフレンドリーなマーケットイベントの創出とそのため
の調査検証(令和6年度 課題調査検証助成事業)

団体名:一般社団法人 Granny Rideto

[熊谷委員]

小規模なフリーマーケットを開催する時、何に気を付けると良いか伺う。

[団体]

フリーマーケットだけ開催するのは、収益面ではあまりうまくいかないと感じる。既存のマルシェイベントの要素や、その他の魅力的な要素を取り入れる必要がある。

[柴田委員]

今回の目的の一つである、ネットワークや協力体制の成果を伺う。

[団体]

協力の程度に幅はあるが、様々な団体に協力してもらうことはできた。事業終了後も引き続き交流している関係者もあり、0が1になった。

[柴田委員]

最終的に目指すところとして、情報を集めて共有し、より良いイベントにつなげるとある。今回の事業の成果は自らの活動のために活かすのか。それとも他の団体に共有して活用してもらうのか。

[団体]

企業と協力しながら、引き続き自分たちで取り組みを続けたい。

[佐藤委員]

様々な地域でマーケットイベントを調査する中で、地域による課題の違いなどは見つけたか。

[団体]

各地域の主催者によってイベントの内容や方向性が決定されるため、その方の趣味嗜好が大きく反映される。例えば蔵王の元町のイベントでは、小学生向けのワークショップを積極的に取り入れるなど、みんなでイベントを作り上げようとする心意気を感じた。

[千葉委員]

今回の調査成果はどこに残すか。

[団体]

「note」などのWebメディアに掲載する。また、仙台市のホームページにもこの発表資料が掲載されるので、それが成果として残る。

[笹井委員]

素人によるフリーマーケットと、プロによるマルシェを同時開催する場合、どの程度の比率とすることが適当と考えるか。

[団体]

それは重要なポイントだと考えている。マルシェの想定売り上げと、開催場所のスペースの広さによって変わると考えている。

[笹井委員]

集客としてのマルシェ、マルシェを目的に集まった人に楽しんでもらうフリーマーケット、そういった住み分けか。なかなかフリーマーケット単体では集客できないことも多い。分かりやすい例では、関上朝市の近くでフリーマーケットも開催しているようなイメージかと思う。

③事業名:大人の習い事メディア事業(住民参加型)(令和6年度 協働実践助成事業)

団体名:NPO 法人 COLLAWAKE、株式会社 enround

[柴田委員]

7名が体験教室に参加されたとのことだが、参加者の属性について伺う。

[団体]

子育てが一段落した、40代、50代の女性。

[柴田委員]

それは想定していたユーザー層か。

[団体]

そのとおりである。想定していたユーザー層は30代から60代前半ぐらいまでで、そのうち一番多いのは50代女性だろうと予想していた。

[柴田委員]

習い事教室を横断したつながりを強化するという今後の方向性は、実施した事業のどのあたりから導き出したか。

[団体]

習い事教室の先生に聞いてみたところ、個別では発表会の開催は難しいけれども、他教室と合同の場合はやってみたいという声があった。

また、他の先生との交流の場を持ちたいというニーズが寄せられた。

[笹井委員]

教室の掲載数、HPの閲覧数ともに足りない。有料広告などは検討したか。

[団体]

有料広告は検討していない。

[笹井委員]

参加者の年齢を考えると、SNSではなく紙での広報が有効だったのではないか。

[団体]

実際にチラシは配布したが、高齢者との接点を持っておらず、効果的な配布先を探すのが難しかった。

[笹井委員]

本事業は、団体が想定している年齢よりも高齢の方にとって魅力的な内容に見える。福祉の文脈でのアプローチが必要ではないか。また、その年代の方にとって魅力的な習い事についてのリサーチが必要かもしれない。

[団体]

メインターゲットは自分で習い事教室まで通える層、概ね 70 代前半までと考えていた。

[千葉委員]

実績を見ると多額の人件費が使われている。このレベルのウェブサイトを作成するのに妥当な金額か。

[団体]

複雑な構造のポータルサイトであり、制作費用の相場は 200 万円程度である。今回はニーズ調査も併せて実施しており、コストを抑えて制作している。

[千葉委員]

インターンや学生ボランティアに謝礼は払っているか。

[団体]

学生には交通費のみ支払っている。

[熊谷委員]

地域に根差した習い事教室と本事業との差別化については、どう考えるか。

[団体]

今後、教室の掲載数やレパトリーを増やしていき、対象者に選択肢の一つとして選んでもらえるようになりたいと考えている。

[熊谷委員]

事業の目的に「福祉っぽくない福祉」とあるが、本事業は福祉の文脈での取り組みなのか。

[団体]

そのとおり。ただし、福祉という言葉は一切出さずに進めていく。

[佐藤委員]

HP を拝見して、事業コンセプトを伝えきれていないと感じた。コンセプトを伝えるための今後の工夫の予定はあるか。

[団体]

運営団体の思いは HP には載せているが前面に押し出せていない。今後も発信は継続していきたい。

④事業名:新しい地域の防災まちづくり推進

～地域と学校がコラボするまちづくり手法の創造から持続できるまちの形成へ～

(令和6年度 協働実践助成事業)

団体名:虹の丘連合町内会、学校法人三島学園

[熊谷委員]

SBL(仙台市地域防災リーダー)との関わりはあるか伺う。

[団体]

虹の丘小学校の避難所運営委員会にSBLの皆さんに顔を出していただいている。今後は連携を増やしたい。

[熊谷委員]

説明の前半で、高齢者の防災意識を高めることが難しいとあったが、それはなぜか。

[団体]

やはり単身高齢者世帯の増加が原因と考えている。単身では、防災活動の全てに参加することは難しい状況だと推察している。

[佐藤委員]

目標の中に「他世代との交流」とあるのが素晴らしい。何か今回の事業における事例はあるか。

[団体]

令和6年度の取り組みの中では、新型コロナウイルスへの感染対策を意識したこともあり、多世代の交流は若干難しかった。ただ、健康づくり講座では、こども連れの方が参加してくれたので、ある意味で多世代的交流ができた。

一方で、令和7年度は、虹の丘小学校の児童と住民が一緒になって防災学習に取り組む準備を進めている。11月に実施予定で、学校、町内会、SBLなど多世代交流を意識して実施したい。

[笹井委員]

防災意識を高めて訓練を継続していくのは非常に素晴らしい取り組みである。今後、助成金なしで取り組みを継続するとあるが、本事業におけるどの取り組みを自走させていく予定か伺う。

[団体]

(令和7年度向けの申請で不採択となったため)令和7年度からは助成が受けられないという状況であるが、防災ポスターや川柳などは良い作品が出てきているため、継続して実施したい。

虹の丘小学校でも防災学習への取り組みが盛り上がっているため、児童と一緒に取り組めるものを続けていきたい。

[笹井委員]

協働相手の三島学園など仲間もいるので、ポスターなどは美術系の人を、訓練等は学校と地域を巻き込んで、防災に強い地域作りを続けてほしい。

[団体]

令和7年度からは助成金など外部の金銭的支援が入ってこないが、連合町内会の会費の一部を使用するなどして、活動を継続したい。

[千葉委員]

先ほどの説明の中で、地域のイベントと重なってしまい集客が難しかったとあったが、地域のイベントと合同で開催するというやり方もある。

[団体]

参考にしたい。

[千葉委員]

地域の避難場所として協力いただける関係を、私立学校である三島学園と築いている点が良い。また、先ほど説明のあったビンゴカードの取り組みも素晴らしい。自宅から避難場所までの経路をビンゴカードにするなど、こども向けの企画も検討いただければと思う。

[団体]

横展開を意識して工夫しながら取り組みたい。高齢化が進んでいる団地ではあるが、多世代の交流が進む関係を構築したい。

⑤事業名:仙台市内の産前産後子育て支援のためのプラットフォーム構築事業
(令和6年度 協働実践助成事業)

団体名:一般社団法人子育てプラットフォーム MaRU、はっぴーすまいるま

[柴田委員]

本事業では、子育て中の母親が自主的に集まる子育てサロンとの差別化が課題と感じたがいかがか。

[団体]

「はっぴーすまいるま」のスタッフは、実際に産後の母親である点は他の子育てサロンと変わらないが、それぞれが保育士や看護師などのスキルを持っている点が差別化の1つであると考えている。

[笹井委員]

集客に課題があるということだが、周知方法や、地域のスーパー・産院等との連携について伺う。

[団体]

以前から児童館でのチラシ配布などは実施していたが、そこからの集客は困難だった。母親へアンケート調査をしたところ、インスタグラムからの予約が年々多くなっていると感じている。それに伴い、少額からの広告掲載や、リール動画を活用して、より伝わりやすい発信になるよう日々活動している。

一方で、地域の産院や、産前産後の方が過ごす場所に、チラシの配架をお願いに上がることもあったが、産院の場合、妊婦以外が立ち入ることへ抵抗がある病院も多くあり、人づてに協力を依頼するなど取り組んでいる。

[佐藤委員]

プラットフォームの構築とあるが、今回実施した複数の取り組みの中で、どの部分をプラットフォームと捉えているか。

[団体]

我々だけでは保護者の課題のすべてを解決することはできないと考えている。例えば産後の授乳の悩みを抱えている母親については、私たちが窓口となり、私たちやその他の支援者のつながりを通して助産師につなげるなど、専門性のある方と子育て世帯をつなぐ、かけ橋の

ような存在になりたいという思いでプラットフォームと名付けた。

⑥事業名:住民参加型の地域イベントの創造—音楽を軸とした新しい地域活動—
(令和6年度 協働実践助成事業)

団体名:八木山まちづくり研究会、仙台ミュージックゴーラウンド

[柴田委員]

少額であっても大勢から資金協力を募ることで、イベントを開催し地域の交流を生み出している点で素晴らしい事例である。

[団体]

できる範囲で経済的な自立を目指して、今後も継続していきたい。

[熊谷委員]

取り組みの記録を残しているのが素晴らしい。協賛金を集めるのは大変だと思うがどのように始めたか。

[団体]

連合町内会の会議で協力を依頼した。

[佐藤委員]

パッケージ化して他の団体でも取り組めるようにするのは良い。工夫などのノウハウだけでなく、企画段階の進め方の知識についてもマニュアル等があるか伺う。

[団体]

地域の若手のメンバーに、責任も含めて企画を丸ごと任せるのが重要だと考えている。人材育成にもつながる。

[笹井委員]

仙台は定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどのイベントや、音楽教室の数も多く、音楽が地域に根差している。本事業における取り組みを今後も広げてほしい。

[団体]

イベント会社やコンサルタントに任せると費用が高すぎる。事業を持続可能にするためにも、今後も自分達でやりたい。その方が、「自分たちでイベントを作り上げた」という住民の満足度にもつながる。

⑦事業名:医療資源/教育資源/公的資源を活用したきょうだい児のための試行事業[かかりつけお兄さんお姉さん](令和7年度 課題調査検証助成事業)

団体名:一般社団法人 ari

[熊谷委員]

かかりつけスタッフへの研修は行っているか。

[団体]

2回の面接、2時間の研修を行っている。初めての活動の際は、先輩スタッフが同行する体制をとっている。

[千葉委員]

事業が発展しており素晴らしい一方、団体の代表者には、医師を目指すという自身の本分があると思う。学業に影響の出ないよう、無理のない範囲で活動を継続していただきたい。また、本事業は「課題調査検証助成」で採択されている。すでに課題調査の範囲を超えて実践の領域に踏み込んでいるように見受けられるため、課題の調査・検証という観点をしっかり踏まえていただきたい。

[団体]

次年度以降、現場の責任者は私ではない方に任せるつもりである。
また、児童精神科医の先生ときょうだい児の保護者へインタビューすることも予定しているため、きょうだい児が抱えている葛藤に加えて保護者の悩みも明らかにしながら、事業の成果に反映していく。

[笹井委員]

きょうだい児の自己理解や自己肯定感の向上など、効果測定が非常に難しい取り組みである。今後調査結果をまとめる際には、定性、定量の両面からアプローチするなどぜひ工夫してほしい。

[団体]

保護者の方から見たこどもの言動、こどもから見た自分自身の言動の2つの側面から、効果測定していきたいと今のところ考えている。

[柴田委員]

例えば東日本大震災で遺児支援をしている「仙台レインボーハウス」の取り組みは、本事業における効果測定の参考になるかもしれない。また、支援の実施前と実施後、それぞれアンケートを実施すると、支援の効果が測れるのではないか。

[団体]

今後の活動に反映したい。

[佐藤委員]

家庭を訪問する頻度について伺う。月に1回の場合、事業期間を通して数回にしかならないが、きょうだい児にどれほどの影響を見込んでいるか。

[団体]

我々の事業の最終的な目標は、きょうだい児がスタッフに「また明日ね」と言える関係性を築くということ。ご指摘の通り、月に1度は訪問したいところだが、現状そこまで手が回っていない。今年度はとりあえず、きょうだい児がスタッフへ「また来月ね」と言えるような頻度で訪問したい。その先は、きょうだい児が自分の周囲の人たちと（自己開示できるような）関係性を築いてもらうことが最善と考えており、今後、家族の交流会などを開催していきたい。

6 令和5年度事業実施報告および令和6年度事業中間報告の評価(非公開)

7 閉会

令和 7 年度 地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業
第 1 回検討会(2 日目) 議事要旨

■日 時：令和 7 年 10 月 27 日(月) 14:30～17:15

■場 所：仙台市市民活動サポートセンター 地階 市民活動シアター

■出席者：柴田由紀委員長、熊谷早希子委員、笹井一史委員、佐藤里麻委員、千葉真哉委員
※過半数の出席により委員会成立

■事務局：市民協働推進課長、連携推進係長、他担当職員

■次第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 令和 6 年度事業実施報告・令和 7 年度事業中間報告
- 4 令和 6 年度事業実施報告および令和 7 年度事業中間報告の評価(非公開)
- 5 閉会

■会議内容

1 開会

2 委員紹介[事務局(連携推進係長)] (省略)

3 令和 6 年度実施事業報告・令和 7 年度実施事業中間報告

委員紹介

(省略)

事業報告

(省略)

質疑応答

次ページのとおり

①事業名：仙台市高齢者の持続可能な学び機会創出を目指す教育研究事業
(令和 6・7 年度 協働実践助成事業)

団体名：学校法人菅原学園・国立大学法人東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター

[柴田委員]

高齢者の生きがいづくりに、この事業が寄与していると良いと思った。
昨年度の中間報告や今年度の採択の際にも、事業への東北大学との関わりが分かりづらいとのこと
で積極的な関与をお願いしたが、今回の報告でも東北大学がどのように分析しているのか読み取る
ことができなかった。今年度中に分析し最終報告会で報告する予定か。

[団体]

去年の年末に参加者に対し大規模なインタビューを行い、心理的・社会的な解析を実施している。
そのような解析結果を今年度の講座に活かしていければと思っている。参加者の目的は、講座で新
しいことを学びたいということもあるが、人との交流もあると思っている。習ったことを地域に、もしく
は自分の生活に活かしていくという視点も考えながら事業を進めていきたい。

[柴田委員]

そのような内容も今年度中にまとめていただき、報告いただければと思う。

[佐藤委員]

令和 6 年度の講座の開催予定は 30 回と認識していたが、21 回の開催になった理由を教えていた
だきたい。
また、令和 7 年度の開催回数を増やす予定はあるか伺いたい。

[団体]

当初はオリエンテーションも 1 回と数え、講座と合わせて全 30 回と考えていたが、各講座の冒頭に
オリエンテーションを行った関係上、回数が減った。その上で全 24 回のプログラムを組んでいたが、
開催人数まで到達しなかった講座が 3 回あった。インフルエンザなどで体調を崩される方がおり、そ
の結果 21 回の開催となった。
令和7年度の対策としては、一番寒い時期の 1 月後半を避けて講座を行うなどしていきたい。

[熊谷委員]

受講者がどんな媒体で講座を知ったかということは分かるか。河北新報にも広告を出されているよう
だが、他の広告との差別化をする工夫などはあるか。

[団体]

広告は受講者から知人への口コミなどで広がっていったようだ。また、広告としては、「河北ウィークリ
ーせんだい」での掲載を中心に行った。

[熊谷委員]

高齢者向けの講座ということだが、参加者の年代は限定しているか。

[団体]

当初は高齢者向けで考えていたが、フラワー講座では 40 代、50 代の参加者が多かった。世代間交
流も考えていたので、事業を進めていく中で大人の講座と言い換えたりもしていた。40 代から 80
代までの方が受講しており、平均すると 60 代くらいである。

[熊谷委員]

仮に受講者が多かった場合に、年齢が高い人を優先することはあるか。

[団体]

申込者全員に受講いただいている。フラワー講座は定員 20 名に対して 40、50 名集まることがあるが、午前と午後に分けて実施する工夫をした。参加者に午前受講か午後受講かの希望を取るなどして調整し、申し込みは断らないようにしていた。調整すると最大でも 70 名程度までは対応できる。年齢だけで断るということはせず広く募集をしていきたい。

[熊谷委員]

講座は、高齢者向けの内容なのか、それとも若い世代の人が学ぶような内容を高齢者に限定して行うのか。

[団体]

当初は高齢者向けの講座内容を考えていた。しかし、高齢者からどのようなことを学びたいかアンケートを取り、その内容を反映させた講座のチラシを作ったところ、比較的若い世代からも反響があった。

[千葉委員]

報告書では令和 6 年度前期分の記載しかないが、何か意図があるか。

[団体]

令和 6 年度後期の実績は報告資料に記載し忘れてしまったが、参加人数は前期より倍くらいになっている。

[千葉委員]

次回報告いただく際は 1 年分の実績をお願いしたい。
今後の講座の実施見込みはどうか。

[団体]

受講者数は 300 名ぐらいの登録をいただいている。人気の講座は引き続き実施し、そうではない講座は改善を加えたい。特にフラワー講座については令和 8 年度も継続して実施する。

[笹井委員]

今後の展開について伺う。地域に出向いた講座を検討していくうえで、「この団地は高齢化が進んでいる」、「この団地は独居率が高い」など地域の実情に沿った計画や戦略があるか。

[団体]

調査段階だが、長町に関して、あすと長町周辺は若年層が多く、長町駅の西側は高齢者が多いと認識している。長町で施設を管理している団体の方とやりとりをして、高齢者が多い場所で講座を実施できないか打ち合わせを行った。泉区においても長町同様、話は進めているが、なかなか協力が得られない状況である。

[柴田委員]

本助成事業は、地域づくりに資する取り組みであることが重要。当初、団体としても、講座で得た学びを受講生が地域に還元していくことを事業の謳い文句にされていたように思う。地域に出向いて講座を開催するのも良いが、地域での新しい取り組みの始まりに受講者が寄与できたかどうかについても追っていただきたい。

[団体]

ご指摘の通り、カルチャー教室だけで終わらないようにしたい。受講者が学んだことを地域貢献につなげていただけるよう、受講者の内発的な動機づけにも着目していきたい。今後は、どうすれば少しでも利益が出せるかということも考え、受講者の作品の展示などを通じて他の人への共感に結びつけていければ良いと思っている。

- ②事業名: ケヤキ剪定枝等を活かした定禅寺通エリアブランディング・プロジェクト
(令和 6・7 年度ソーシャルビジネス的手法による地域づくり促進助成)
団体名: 一般社団法人定禅寺通エリアマネジメント・アサヒユウアス株式会社

[佐藤委員]

ブランディングに関して、年齢層が高い方をターゲットにされていると思ったが、その理由や方針があれば教えていただきたい。

また、「定禅寺ストリートビール」は、ケヤキがビールの製造工程で使われているということでしょうか。

[団体]

ターゲットとしている年齢層が必ずしも高いというわけではなかったが、ご指摘いただき、そのように見えるということが分かった。定禅寺通りに親しみを持っている方や日頃足を運んでいる方に、若い方が少ないという現状があるが、団体としては若年層にも届けていきたい。

また、「定禅寺ストリートビール」は、ケヤキの剪定枝をチップ化したものを麦芽の燻煙過程で使っている。

[笹井委員]

計画ではタンブラーを 1,000 個売るということになっていたが、現状 433 個と目標に届いていない。定禅寺通り周辺では「バンバル仙台」や「立町たちのみ」など様々なイベントがあるが、そのようなイベントと連動、コラボする企画は検討しているか。

[団体]

タンブラー単体の販売は「バンバル仙台」で行っている。また、数は少ないが店舗販売もやっている。本来であれば複数の店舗で本事業を認知していただき、タンブラーをイベントに取り入れていただけると良いと考えている。「バンバル仙台」や「立町たちのみ」のイベント関係者とは日頃からやりとりしているので、今後取り組みを広げられるように話をしたい。

[笹井委員]

ユーマディアが開催するワインのイベントである「バンバル仙台」は、参加者がワイングラスを購入する仕組み。参加者に協力してもらい、エコなタンブラーならほかの人に比べて多くお酒を注いでもらえる、といった交渉や取り組みを広げていただければと思う。

[柴田委員]

元々定禅寺ストリートジャズフェスティバルで配布されていた「手づくりミニガンザ」がなくなり、その後どうなるのかと思っていたが、「JSC ガンザ」として復活したことは喜ばしい。地元の方に愛されるような物になれば良いと思っている。来年度以降の事業イメージが現時点であれば教えていただきたい。

[団体]

ジャズフェス実行委員会と「JSC ガンザ」を販売した所感であるが、リバイバル前の製品を知っている方からは過去の経緯などご指摘いただけた。しかし中には製品のストーリーを知らない方もいて、来年は改善していきたいと思った。また、「JSC ガンザ」を使って楽しむ場のイメージが湧きづらかったのも、事前 PR はもっとやっていくべきであった。

③事業名：地域の活性化に向けた宮沢根白石線連坊小路高架下エリア利活用方法の検証
(令和 7 年度課題調査検証助成事業)

団体名：宮沢根白石線連坊小路エリア高架下活用検討協議会

[柴田委員]

商工会や町内会、児童館、大学、地域のボランティアチームなどが一緒に取り組んでおり、まちづくりの基本が踏まえている。高架下という新しい場所を団体がどのように活用していくか、今後も期待している。10月22日に開催したイベントの内容について伺う。

[団体]

イベントは、キッチンカーや雑貨屋が出店したもの。当日は10時から13時まで開催し、230人ほどの参加であった。8月に開催した時は350人ぐらいであったが、今回は平日の昼開催のため人数が少なかったように思う。参加者はこどもたちからお年寄りまで幅広く、一番多い年代としては30代から40代であり、70代以降の方も来ていただいた。次回の開催日について質問をする方もいたので、皆さんにイベントは楽しんでいただけたと捉えている。また、夕方ぐらいに行った時に、小学生が友達同士で集まっている様子を見かけた。公園とは違う、こどもの集まることができる新たな場所となっている。

[柴田委員]

課題調査検証助成事業であるので、事業を積み重ねながら、どのような形で高架下を活用するのが良いのかという課題が明確になってくれば良い。

[熊谷委員]

私も町内会の一員であるが、コロナ禍を期に多くのイベントがなくなってしまい、元に戻すのが非常に大変であると感じている。この事業についてもゼロからスタートしていると思うが、イベントを運営する実働部隊である町内会の方たちの理解をどのように得たのか。また、新しい取り組みを始める時にどのような工夫をしたか。

[団体]

協議会自体が立ち上がったのが令和5年度。当初は、地域に新しく道路ができることに対して不安を抱えている方もおり、協議会では「どうしたら連坊が良くなるか」という危機意識を持っていた。もともと連坊地区ではお祭りが盛んに行われていてイベントが好きな人達が多く、新しい取り組みに対し様々意見を出してくれる地域性があるように思われる。協議会のメンバーは頻繁に顔を合わせていて、作業部会も2週間に1回というペースで集まっている。イベントを開催するにあたって工夫した点については、今後整理していきたい。

[熊谷委員]

不安が原動力になるということを肝に銘じた。私も自身も町内会のメンバーと何回も会うようにしたい。

[笹井委員]

高架下の最大の利点は、屋根がついている場所でイベントを開催できることである。ぜひ他のイベントも誘致して事業を進めていただければと思う。
高架下は、多くの人が収容できるスペースがあるか。

[団体]

小さい体育館並みの広さはある。

[笹井委員]

火器の使用も可能か。

[団体]

今までのイベントでは使っていないが、11月8日に予定しているイベントでは消防署に申請して許可を取っている。

[笹井委員]

幅広く集客し、商店街や地域の活性化を目指していただければと思う。

[団体]

イベント時には区役所の道路課に全面的にバックアップいただいております、ありがたく思っている。協議会として、道路占用許可の申請フローなども整理している。

イベントを2回行っているが、高架下は地域の人たちが使っていける地域資源だと思う。連坊地区だけでも14の町内会があるので、町内会もしくは商工会が持ち回りでイベントを行えば地域活性化につながっていく。イベント開催時に必要となる手続きについては整理できていないので、課題を検証していく中で明らかにしていきたい。

④事業名: 重度障害者等の就労の為のシェアオフィス事業(令和7年度協働実践助成事業)

団体名: NPO 法人 UBUNTU・一般社団法人 MOTTO

[千葉委員]

今は1名の就労者のサポートを行っているが、今後、対象者が増える見込みは。

[団体]

見学者含めて2名ほど申し込みがあるが、ヘルパーが確保できていないので、希望者には待っていただいている状況である。

[千葉委員]

利用者やヘルパーを増やし、シェアオフィス事業を広げるというよりも、今回の取組みのような事例を仙台市に広めていくことで重度障害者が働ける環境を作っていただきたい。

[佐藤委員]

本事業は、シェアオフィスという点で非常に独自性が高い福祉サービスである。シェアオフィスだからこそできる取り組みについて教えていただきたい。

[団体]

企業が障害者を受け入れる場合、障害の程度や種類に合わせて設備を整える必要がある。一方、シェアオフィスでは玄関から入口までスロープが設置されており、車椅子での移動することが可能になっている。企業がこのような設備を整えるのはハードルが高い。企業からは、自らのオフィスで障害者に仕事をしてもらうのは難しいが、設備の整った別の場所で作業してもらえらるのなら仕事の発注は可能と聞いており、実際に飲食店からの受注につながったことが成果として挙げられる。

[佐藤委員]

障害者がシェアオフィスで1ヶ月ほど研修を受けた後に企業のオフィスで仕事をする働き方をすることも可能、という説明があったかと思うが、シェアオフィス内だけで完全リモートワークも可能という認識で正しいか。

[団体]

その通りである。シェアオフィスで働いている障害者は個人事業主なので、在宅ワークも可能であるが、シェアオフィスは働く場と生活の場を分けることができるので、日常生活との切り替えができるという点に価値がある。また、地域の方は重度障害者でも外に出て働ける

とは思っていないので、就労者が外に出ていくという点も（障害者理解推進の観点から）良いことである。個人事業主はそれぞれやっている仕事は違うが、同じ空間で仕事を体験できるシェアオフィスというモデルが本人たちにとって良いのではないかなと思う。

[柴田委員]

現在はシェアオフィスを整備するための費用を助成金から捻出しているが、今後助成金を活用できない状況となった場合にどのようにシェアオフィスを運用しようと考えているか、また、今後何が必要になってくるか伺いたい。

[団体]

今回のシェアオフィスの事業を通して、実証事例が十分に確保できていると実感している。来年度は、事例や情報をまとめたウェブサイトを作成して広報活動を行っていきたい。広報のイベントを3月に予定しているので、活動を通して多くの関係団体や企業に認知してもらいたい。

また、企業が重度障害者の雇用を視野に入れた時に、この事業が事例になり、重度障害者受け入れの窓口として社会にも広がっていきけるとよい。

シェアオフィスのメリットとして家賃をシェアできることも挙げられるので、家賃をみんなで払って仕事も充実させていく一つのモデルを確立したいと考えている。

⑤事業名：多世代交流型木育モデル事業(令和7年度協働実践助成事業)

団体名：株式会社杜設計・株式会社コンパス・ファクトリー

[千葉委員]

「木のおもちゃひろば」のボランティア参加者は、どのようにして集めたか。

[団体]

仙台市教育局の学校規模適正化推進室や宮城大学の教授に相談したほか、プレーパーク活動をしていく中で知り合った大学教授にアプローチするなどして集めた。学生ボランティアについては、経済局が様々なインターンシップを募集していたのでそこで申し込みを受け付けた。結果として、約50名のボランティアを集めることができた。

[笹井委員]

非常に良い取り組みであるが、事業を自走化させるには現状では厳しく、仙台市や他団体のスポンサーなどの協力が必要不可欠である。今後のアプローチや展開を教えていただきたい。

[団体]

イベント会場をアエルにしたことで、大きな経費が掛かるため、参加費を1人あたり300円徴収することにした。ご指摘の通り事業の持続性を考えると、応援していただいている方や事業を知っていただいている方からお金を集めながら実施するのが良いと思った。

[熊谷委員]

「木のおもちゃひろば」では大工さんがいろいろと指導してくれているようだが、本職の大工さんは団体に所属している方か。また大工の育成に関して何か考えていることはあるか。

[団体]

住宅のメーカーである杜設計と、個人事業主の棟梁で構成された団体である「みや・だいく」がペアになって、大工の育成活動を行っている。「みや・だいく」には30代から40代の大工が5、6人所属していて、我々コンパス・ファクトリーとしても大工がいなくなることに危機感を持っていたため、協力者となってもらった。

⑥事業名:「防災アドベンチャー」を用いた地域の防災活動活性化事業
(令和7年度協働実践助成事業)

団体名:災強のすけっと・黒松町内会

[笹井委員]

黒松町内会から集まった参加者の数は想定より多かったのか少なかったのか、伺いたい。

[団体]

土曜日開催なので一定数以上の参加者数を見込んでいたが、習い事やスポーツをしている方が多く、集客が厳しいと思い、途中から児童館との共催のような形になった。児童館に通っているこどもたちが来てくれたから形になったように思う。今後は、児童館と初めから共催すれば、30人から40人の規模で開催できると思っている。今回、参加者が10人まで届かなかったが、町内会の事業としては十分な形にできた。

[柴田委員]

仙台市内では、地域主催の社会学級やPTA活動が盛んで、市民センターや児童館で色々な館長達が集まって研修会なども行われている。そのような場で事業の告知や宣伝をすると、かなり良い反応が得られると思う。来年度に向けてできるだけ早く手順書の改定作業を行い、でき上がったら宣伝の場を設定していただくとより良いと思う。

[団体]

承知した。ぜひそのように進めたい。

[千葉委員]

助成金の額に対して使用金額がまだまだ少ないが、事業は順調か。

[団体]

ご指摘の通り、計画の半分にも満たない金額しか使っていないのは事実である。今後「防災アドベンチャー」を広めるための説明会に力を入れていきたいと思っており、説明会のセッティングに残りの金額を使う予定である。当初、人件費を50万円から60万円近くで設定していたが、学生が無償で協力してくれる場合が多いため予算を使い切れていない。

[熊谷委員]

最終的な目標は、マニュアルを作ることか。

[団体]

マニュアルを作り、説明会を実施するということまで実施したいと考えている。実演は地域の方にやっていただきたいと思っている。

[熊谷委員]

そのマニュアルは、地域の規模に合わせて使用可能か。

[団体]

団体としては、できるだけ単位町内会で行ってみたいと思っている。「防災アドベンチャー」は、避難所となる学校から小学生の足で徒歩20~30分程度の場所で行うことを想定しているほか、各地域の地区防災マニュアルを改定する時にも実施していただきたいからである。また、防災イベントを開いて終わりではなく、こどもたちの意見を自分たちの地域の防災マニュアルに落とし込んでもらいたいと考えているが、大規模なエリアで「防災アドベンチャー」を行うと、それぞれの町内会の特徴や特性が考慮されない恐れがある。ご指摘の意見を参考に、町内会の規模に合わせた「防災アドベンチャー」も考えたいと思う。

4. 令和 6 年度事業実施報告および令和 7 年度事業中間報告の評価(非公開)

5. 閉会

〈議事録署名人〉

[委員長] 柴田 由紀

[署名人] 熊谷 早希子
